福岡・営開・営総発No0013-008
令和６年11月18日

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
（事務局：ＪＡ全農ふくれん営農総合課）
（公　印　省　略）

営農情報７

麦の遅まき対策について

今年は大豆の成熟期が遅れており、収穫時期も遅れることが予想されます。
そのため、大豆後に麦を作付けするほ場では、播種が12月以降に遅れることが心配されます。
播種が遅れると、気温の低下に伴い出芽までに期間を要するため、出芽不良や生育不足により収量、品質が低下する恐れがあります。
そこで、作業計画に基づく効率的な作業を実施し、水稲後のほ場など、準備が整ったところから播種を開始するなど、適期に播種作業が完了するよう努めましょう。
また、播種が遅れる場合は、下記の技術対策を実施するようお願いいたします。

１　遅播きのポイント

●栽培暦を参考に、播種量を増やして出芽本数を確保。
●深播きにならないよう播種深度を調整し出芽までの期間を短くする。
●シロトビムシ類の被害が心配されるほ場では、薬剤防除による対策を実施。

２　土壌水分に応じて播種の深さを調整

●土壌水分が適度にある場合は、播種深度は２～３㎝（種子が隠れる程度）。
●土壌が乾燥し、天気予報でしばらくの間雨が降らない日が続くと予想される場合は、播種深度は４～５㎝。

３　播種後の技術対策

（１）踏圧
麦の分げつ促進や倒伏防止のため、葉齢が３葉期以上になったら踏圧を行い、茎立ち期までに数回、土壌水分が少ない時に実施する。
（２）土入れ
追肥後は必ず土入れを行い、肥料の流亡を防ぐ。

以上